令和５年度　第２回環境水理部会　議事録

日時：　令和５年１２月１３日（水）11:45～12:45

場所：　大阪大学中之島センター 第三会場（セミナー室 7CD）

参加者：　**部会長**：赤松（山口大）｜**副部会長**：新谷（都立大）｜**幹事**：吉川（北見工大），東（国環研）｜**委員**：赤堀（愛知工大），石塚（香川大），厳島（東京工大），乾（福岡工大），入江（大阪大），梅田（日本大），大槻（山梨大），片岡（愛媛大），川村（寒地土研），工藤（いであ），小林（京都大），斎田（鹿児島大），重枝（九工大），清水（日本工営），鈴木（八千代エンジニヤリング），田井（福岡工大），田代（名古屋大），都築（リバフロ），鶴田（建設技研），中西（土研），中山（神戸大），古里（水資源），細川（港空研），牧野（静理工大），溝口（土研），横山（都立大）（出席者：下線），計 16/30 名．敬称略.）

オブザーバー：矢野（九州大），久加（富山県大），中谷（大阪大），丸谷（九州大）（出席者のみ記載，敬称略.）

１．第１回環境水理部会議事録の確認（赤松）

・前回の議事録についての確認が行われ，承認された.

２．水工学委員会の報告（赤松）

・各種イベントの開催について案内があった.

→基礎水理シンポジウム 2023 in 土木学会講堂（2024 年 3 月 5 日）

→河川技術シンポジウム（2024 年 6 月 20 - 21 日）

→水工学講演会（富山県民会館，2024 年 12 月 2 - 4 日）

→水工学に関する夏季研修会（大阪公立大学，2024 年 8 月 29 - 30 日）

→第 4 回日中土木学会シンポジウム（2024 年 4 月 24 日-27 日）

→水シンポジウム 2024 in ながの

・土木学会論文集特集号への投稿論文の修正方法について，現在，水工学委員会で議論されていることが報告された.

３．WG 活動報告

・沿岸海洋環境（田井）

2024 年度に，研究集会，現場見学会が計画されていることが紹介された.

・火山麓河川水系（田代）

2023 年度のオンライン勉強会，現地巡検について報告された.

・閉鎖性水域（新谷）

2023 年度の現地見学会（沖縄県久米島）について報告された.

2024 年度の現地見学会（沖縄周辺）の計画について紹介された.

・適応（梅田）

2023 年度内に WG を開催予定であることが紹介された.

４．2023 年度研究集会・報告（吉川）

・環境水理部会研究集会 2023 in 気仙沼について報告された.

・同研究集会の会計について報告された．会場から異論の声はあがらなかった.

５．2024 年度研究集会について（大槻）

・奄美大島（1 泊 2 日）で開催を計画していることが紹介された.

・交通アクセスの観点から前泊と，宿泊先が限られることから早期予約が必須となる.

・会費の範囲（カヌーなどを用いた現地調査の費用を会費に含むか）は検討する.

６．学生オブザーバー制度について（赤松）

・博士課程に進学する学生を増やすことが目的である. そのために，博士課程の学生と，修士課程の学生の大学，研究室の垣根を超えた交流を促進する.

→水工学委員会でも，博士課程の学生を増やす重要性が認識されているものの進んでいない.

・参加者から様々な意見があった.

→院生であれば同制度への加入を歓迎するほうがよい.

→加入するメリットがあったほうがよい.

→メリットがなくても，学生間のコミュニケーションを望んでいる可能性があるのではないか.

→研究集会で学生を表彰する仕組みを設けるとよい.

→同制度に名称（愛称）があったほうがよい.

→規約などは必要か.

→運営の主体は学生としたほうがよい.

→運営初期は，学生と教員が一緒につくっていくのがよい.

→同制度で集まった学生の活動範囲は，環境水理に関連する分野に制限するか. 自由度があったほうがよい.

→少なくとも初期は，環境水理に関する分野に活動範囲を限ったほうがよい.
→環境水理に限った場合，同制度に加入する学生数はどれくらいになるか. それに基づき，活動範囲を検討したほうがよい.
→学生数が多すぎると，却って活発な活動が阻害される可能性があるのではないか.
→博士課程のキャリアパスについて知る機会を設けるとよい.

７．その他
・流域圏シンポジウムを計画していることが紹介された（赤松）.

以上